

もうすぐお正月ですね。大晦日除夜の鐘が鳴り終わると、もう新年です。

初日を押みに行く人もいるでしょう。日の出が見える小高い所に行くと、たくさんの人が集まっていて、凍えた手に息を吹きかけながら日の出を待ちます。すでに東の空は明るくなっています。もう出るか、もう出るか、と思うのですが、なかなか太陽は出てきません。やがて、ピカッと閃光が走ります。その神々しさに、思わず合掌します。太陽は見る見るうちに、その姿をあらわします。

日本は日の丸の旗に象徴されるように、命の源を太陽に仰ぎ、太陽をとて大事にしてきました。太陽がなければ動物も植物でも生き物はみんな死んでしまうからです。太陽の素晴らしい力は神様の表れとして大事にしてきました。何か悪いことを考えたり、したりしそうになると、昔から「おてんとうさまが見てござる」と言って自分の中の良心を呼び覚ましてきました。古事記には、太陽は万物を生かす天照大神の化身であると書かれています。初詣をして、産土の神様に、昨午が無事であった事への感謝をささげ、今年一年心正しく生きる事への決意を述べます。

年始めに各家庭に一年の幸福をもたらす「年神様」が門松やしめ縄などを依り代としてやって来られます。そのお迎えをするために、まず、神棚や仏壇をきれいに掃除し、それから台所や各部

屋をそうじします。お世話になった方々やご先祖さまへの「ありがとう」の気持ちをこめて、家族みんなで大掃除をしましょう。

心も家もきれいにして、すがすがしい気持ちで新年を迎えましょう！

【冬至】十二月二十二日

二十四節気で冬は立冬から始まり、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒と続くため、一暦の上では冬至は冬の最中だが、実際にはこの日から本格的な冬の寒さが始まる」という意味です。

冬至は北半球では、一年で太陽の高度

が最も低く、昼が一番短い日で、物の影が最も長くなるため、大昔から正確に測定できた。そこでこの日を基点に、一太陽年を二十四等分し、二十四節気が作られました。古代シナでは陰が極まり陽気が復するこの日を「一陽来復」と呼びます。この考え方は世界中に見られ、太陽の復活を願う「冬至祭」が古くから世界各地で行われてきました。

冬至前後、伊勢神宮では、宇治橋の大鳥居の間から昇る朝日を拝める。冬至の日にはちょうど中央に昇るため、これを撮ろうとする人々が全国から詰めかけます。冬至にゆず湯に入りカボチャを食べるのは全国的に見られる風習で、無病息災を願うのもです。

【天皇誕生日】十二月二十三日

第二百二十五代・今上天皇のお誕生日です。今年、八十四歳になられます。天皇陛下は、「国民が幸せであるように、世界が平和になるように」と毎日お祈りされ、どんな災害や困難が訪れた時も、国



民と苦しみを分かち合いたいと、いつも国民の心に寄り添い、励ましてくださる、国民のお父さんです。そんな天皇陛下のいらつしやる日本は、世界で一番幸せで恵まれた国です。

【大晦日】十二月三十一日(大祓)と(大掃除)

生活の中で気がつかないうちにおかした罪や過ち、心身のけがれをはらう「大はらい」が全国の神社で行われます。百八つの除夜の鐘は、人が持っている百八個の煩惱を取り払う意味が込められています。

大祓というのは、紙で作った人形に名前を書いて息をふきかけたり体を撫でたりしたものを神様の前にお供えしてお祓いをする儀式で、今から千七百年程前の仲哀天皇が崩御なさった時、国として大祓を行ったのが最初で、それ以後ずっと宮中や民間の間で年中行事となりました。

日本においては、人間の本性は、完全に円満な美しい魂をもった日子・日女(天照大御神の子)であるから、上についたほこりならば、はらったらとれて、本来の姿に戻る、と考えられていました。日本人は祓うべきものは、諸々の罪と穢れという一点にしばっています。罪とは、「本来神の子の本当の姿をつみ隠していること」。穢れとは、「気枯れ」とも書かれるように気が枯れること。包みをほどこき、気枯れをはらうとは、生き生きと明るく朗らかに、神の子の陽気



いっばいに生きることです。禊ぎ祓いの根本は、神の子人間の自覚を生き、「天の世界そのままに地上に理想世界を実現する」という古事記に記された国生みのみ心に仕へ奉る

(祭り)ことなのです。

子育てワンポイントアドバイス

『ノートルダム清心学園の理事長をされていて、多くの素晴らしい本をお書きになった、渡邊和子さんが修道会にいたときのことで。』

食事の準備のために、食卓にお皿を配っていた渡邊和子さんに、あるシスターが寄ってきて訊ねたそうです。「あなたは今、何を考えながらお皿を配っていますか？」渡邊和子さんは戸惑いつつ、「いえ、何も考えていません」と答えました。

そのときシスターは、「あなたは時間を無駄にしています。なぜ、このお皿を使う人の幸せを祈りながら配らないのですか。この世に雑用という仕事はないのですよ」そう教えてくれたというのです』

以上はあるブログからの引用です。

以前友人に薦められ渡邊和子さんの本を読み、深く印象に残っている言葉です。

お皿を洗うとき、ちよつとした家事をしている時などつい“雑用”と思ってしまうがちですが、心の使い方を変えるだけで時間の使い方も心の豊かさも変化するのでと学ばせていただきました。わかっていてもつい忘れてしまいがちですが、あえて時間をつくらなくても生活の中に取り入れ習慣にすることができます。何気ない日常の営みの中で人の幸せを祈り合うことで無限の豊かさを産み出していけると想像するだけで愉しく思わず笑みがこぼれます。まだまだ習慣にはできていない私ですが、実践し続けたと思っています。(北原明美)

和歌コーナー

あかいなす はじめてみたよ ちいさかった
きいろもあるよ きれいだな
年長 M・S

☆あかなすは、まるくて赤くてつやつやしていましたね。

みみずがね さといもの中に いたんだよ
てでつかまえたよ 上げていったよ
年長 H・H

☆さといもの中にみみずをみつけてつかまえたのね。みみずさん、びっくりしたでしょうね。

えだまめは 大豆になるよ おいてたら
かたかったよ おいしそうだよ
小学三年 H・A

☆枝豆を、からからになるまで、ほうっておいたら、まんまるの大豆になることがわかりましたね。

えだまめが からからになり さやのなか
だいができた おいしそうだな
小学三年 M・A

☆大豆のできかたを目で確かめることができます、おもしろかったですね。

実りの秋 赤いなすや さといもや
大豆もあつて いろいろあるよ
赤い葉が たくさんあつた
赤なすや さといも大豆 実りの秋だ
小学四年 Y・Y

☆秋は、野菜も果物もおいしく実り、ゆたかな心持ちになりますね。幸せを感じます。



今月の論語

子、曰わく、

「過ちて改めざる、

是れを

過ちと謂う。」

(現代語訳)

孔子先生がおっしゃった。

「過ちを犯してしまつて、それをそのままにして改めないのが、それこそ本当の過ち」というものだ。」

(解説)

誰でも過ちをゼロにすることはできません。

しかし、失敗したり、間違つてしまったことをそのままにしておいてはいけません。

素直な気持ちでやり直しましょう。そのままにしておくことの方が大きな間違いです。

「親子で楽しむこども論語塾」(明治書院より)

次回は、一月二十七日(土)です。

講演会とミニ寺子屋です。

『日本の知恵が世界を救う』

井上雅夫先生(同志社大学名誉教授)

西宮市中央公民館六階 和室 九時半受付

(文責・藤波)